Joy風
Faculty of Informatics
Shizuoka University Newsletter
Vol.17, October 2016
http://www.inf.shizuoka.ac.jp
October2016
vol. 17
静岡大学情報学部

行事報告

Report of events

平成 28 年度入学式・保護者懇談会

情報学部学生委員会　遠藤 正之

平成 28 年度の入学式は、４月４日（月）10 時から静岡県コンベンションアーツセンター（グランシップ）にて行われました。本年度から情報学部では、情報科学科、情報社会学科に、新設の行動情報学科を加えた３学科体制が始動し、従来比約 40 名多い 249 名の新入生を迎えました。

当日午後には、新入生の保護者の皆様を対象とした「情報学部保護者懇談会」が開催されました。会場から富士山が望める穏やかな天候で、大変多くの保護者の皆様にご参加をいただきました。懇談会では、中谷学生委員長の司会進行により、酒井学部長はじめ、各学科長、教務委員長、学生委員長、キャリア支援室長、国際交流委員から情報学部の現状、教育、就職、学生生活等の説明をさせていただきました。また、本学部の同窓会組織である浜松工業会会長からも挨拶をいただきました。

保護者懇談会会場から望む富士山（2016/4/4）

今回は、浜松市をはじめ静岡県内、愛知・岐阜・三重の３県から多くの保護者の皆様にご参加いただいたほか、中部地方、近畿、関東、中国・四国、東北、北海道など遠方からもお越しいただきました。懇談会の終盤には、質疑応答の時間を設け、保護者の皆様のお声をいただきました。また 168 名の保護者の方から、アンケートのご回答をいただきました。多くの貴重なご意見をいただき、大変ありがとうございます。今後の学部運営に反映してまいります。

新入生歓迎合宿 in 伊良湖

情報学部学生委員会　遠藤 正之

４月 16 日（土）から 17 日（日）の午前にかけて、愛知県渥美半島の先端に位置する休暇村伊良湖で、情報学部の新入生歓迎合宿が開催されました。この新入生合宿は、情報学部の良き伝統として毎年実施されていますが、今回は３学科体制始動の初年度で、例年より約 40 名多くの参加による盛大な合宿となりました。

この合宿は、毎年企画から運営までの多くを、情報学部在学生である２年生と３年生の有志ボランティア学生が中心となって進めてくれています。今年度も 20 人以上の上級生スタッフが、新入生の時に受けた感激や充実感を後輩に引継ごうという意気込みで、様々な企画を立てて運営を進め、その様子を、学生委員会を中心とした教員が運営責任者として見守りました。

本合宿では、移動のバスの中での自己紹介にはじまって、入村式、バーベキュー、レクリエーション、ナイトウォーク、懇親会などの盛りだくさんなイベントが、上級生スタッフ主体で進められました。新入生にとっては、入学当初の緊張がほぐれ、一緒に４年間学ぶ良き仲間との絆ができる大変意義ある合宿となりました。上級生スタッフにとっても、大きなイベントを企画運営することで、リーダーシップを取ることの難しさや、達成できた時の充実感を味わうことができる良い体験ができたと考えます。また、新入生と先輩や教員との相互の交流も行われ、学部全体の親睦を大いに深める有意義な合宿となりました。

入村式での上級生スタッフの挨拶（2016/4/16）

夏季オープンキャンパス

情報学部広報委員会　田中 柊子

８月９日、夏季オープンキャンパスが開催されました。午前・午後を合わせて約 600 名の方々にご来場いただき、情報学部での学習・研究や大学生活の雰囲気を体験していただきました。全体説明会では、平成 28 年度からスタートした３学科体制の概要とキャンパスライフの紹介、入試に関する説明、そして就職などの進路先や支援体制について説明がされ、来場者は真剣な表情で耳を傾けていました。ミニ講義では、情報科学科、行動情報学科、情報社会学科の各学科を代表して３人の教員が登壇し、情報科学や人工知能の最前線からロボットの法的「責任」に関する問題提起まで、参加者に情報学部での講義を実際に体験してもらいました。研究室等展示でも、無線センサネットワーク、自動二輪車の情報科学的研究、不可視光イメージング、ヒューマニクスセキュリティ、電子レシートサービス、セマンティック Web とエージェント技術、社会情報学、フィールドリサーチなど、多彩な研究が紹介され、文と工が融合した情報学の世界を垣間見ていただけたのではないかと思います。個別相談では参加者の質問・相談に教職員と在学生が応じました。入試をはじめ、大学での授業や生活、就職などについての疑問や不安を解消していただけたのではないかと思います。オープンキャンパスでの体験を通じて、一人でも多くの参加者が情報学部に関心をもってくれたことを願っています。

ミニ講義の様子（2016/8/9）

留学で新しいことを経験する

情報科学科１年　姜 建雄

中学の頃からずっと夢見ていた日本留学。私は入学式の時の吹奏楽団の演奏を聞いてその夢が叶えられたことを実感しました。日本での大学生活は確かに不安もありましたが、今までの人生で経験したことのない出来事が経験できるという楽しみでその不安は軽微なものとなりました。不安と楽しみが混ざり合った不思議な気持ちを抱き、私は大学生活を始めました。私が志望した学科は情報科学科です。小学生の頃、親が初めて買ってくれたパソコンに予めダウンロードされていたゲームにはまり、中学生の頃にはゲーム制作ツールを使って自分でゲームを作ったりしました。高校卒業後、ネットで VR 技術を利用してホラーゲームをプレイする動画を見て情報学に興味を持ちました。その動画はオキュラスリフト VR という VR 機器を頭に装着し、あたかも自分が主人公になった気分でゲームを楽しむ動画でした。私はその動画を見て VR の魅力にひかれました。そして、VR や AR のような最先端技術の研究に携わりたいと思い、情報科学科に入ることを決めました。しかし、静岡大学にはまだ VR 関連の研究があまりされてなく、私は最初こそ残念だと思いましたが、VR の魅力にひかれたように大学生活をしながら新しい別の技術に興味を持つことになるかも知れないと思い、むしろ楽しみが増えた気分になりました。予測できない新しい経験が待ち受けている留学生活で私はこれから自分を成長させていきたいと思います。

行動情報学科はすごい！！！

行動情報学科１年　村田 百葉

私が行動情報学科を志望した理由は３つあります。１つ目は文工融合の学科であることです。私は理系でしたが、受験前になって文系のことにも興味を持つようになりました。それに実際社会に出てから直面する問題に文系理系の境目はありません。そうした問題に対応できるようになるには、文理の分け目に捉われずに学ぶことが大切だと思いました。２つ目は新しい学科であることです。新しい学科だからこそ自分たちでいろんなことに挑戦できると思いました。３つ目は幅広いことを学べると思ったことです。情報学といってもコンピュータの内部のことを学ぶ授業から、マネジメントについて学ぶものや情報倫理について学ぶものまであります。これらの話は「情報学総論」という授業でやります。行動情報学科独自の授業としては「問題分析とモデリング」というものがあります。グループワークが多く高校までとは違った授業に最初は戸惑いましたが、今では面白くなってきました。

１年生の前期には「新入生セミナー」という授業があります。新入生セミナーでは担当の先生によって何をやるかが違います。私たちの新入生セミナーでは先輩方から話を聞いたり、レポートやプレゼンの練習、人狼というゲームをやったりしました。１クラスあたり 15 人ほどなので、他の学科の人とも仲良くなれました。毎回程よいゆるさで楽しくやっています。

私は静岡大学情報学部行動情報学科に入学できて本当に良かったと感じています。大学４年間ではいろんなことに全力で取り組みたいです。

大学生としての意識

情報社会学科１年　清田 直希

僕は小学生の時からパソコン教室に通い、高校ではパソコン部に所属していたため、以前からコンピュータに興味がありました。そのため、大学に入ったら、情報系統の学問を学びたいという気持ちがありました。それが志望のきっかけでした。

大学の授業は、教養科目はもちろん「情報学総論」等の情報に関する知識を学ぶ専門科目があります。難易度的には初心者にもわかりやすい内容ですが、専門用語が多いのでわからない単語は積極的に調べるようにしています。また、大学ではシンポジウムやディスカッションを中心とした授業も存在します。いかに自分の意見を的確に伝えるかが重要となります。シンポジウムではあらゆる視点で物事を捉えなければなりません。そのため、自分では考えもしなかったような意見を他の学生が発言することも多々あります。このように、他の学生の意見は自分にとって良い刺激になるため、個人的にはこのシンポジウムのような授業が一番面白いと感じました。

以上を踏まえて、大学で感じたことは、自ら積極的に行動することが大切だということです。不明な点があったり、助けが必要な場合、自ら行動することが高校以上に求められます。それは、授業においても同じです。自分から行動することは勇気がいるので、ためらわれるかもしれません。しかし、自分からサインを出さないと周囲の流れに乗り遅れてしまうでしょう。そのため、僕はあらゆる場面で積極的な行動を意識するようになりました。これからも積極性を大切にし、幅広い活動に挑戦したいと思います。

現代の情報経営に挑む

行動情報学科　永吉 実武

2016年４月に着任しました永吉実武です。日本社会が成熟期を迎える中、企業経営においてはイノベーションやグローバル化といった様々な課題に直面しています。このような状況下では、我々はかつて経験したことのないことに対する意思決定やかじ取りが求められます。では、我々は何に基づいて、どのように意思決定を行い、どのように企業経営を進めていかなければならないのでしょうか？ここで求められるのが、経験だけでなく、確固たる論理・理論に基づいた科学的な意思決定と組織運営です。そして「情報を診る目」も必要です。私の研究では、現実の企業との協力関係のもとで、企業経営のパフォーマンスの向上に焦点をあて、情報や情報技術を用いたイノベーションの実現やグローバル化といった今日の経営諸課題解決のための研究を推進しています。この成果は広く学生教育や社会人教育、企業からの相談といった活動の中で還元することにより、企業の経営パフォーマンスが向上するといった好循環のサイクルを実現させたいと考えています。ぜひ、皆さんと一緒に地域経済・社会のさらなる活性化とグローバル化の進展に情報と経営という観点から取り組んでいきたいと思います。

心とコンピュータ

行動情報学科　森田 純哉

人間の心とコンピュータを結ぶ研究を専門としています。心とコンピュータはともに情報を処理するという点で似ています。この類似を頼りに、人間の心の模型、つまり人間の思考や感情を再現し、予測するソフトウエアを研究しています。また、人間の心は、物理的な行動や生理的な反応（脳波や心拍など）を生みます。それらを入力することで、人間の思考や感情を理解するコンピュータを研究しています。さらに、二つの成果を統合することで、心に働きかけ、心を変化させるコンピュータシステムを開発しています。

コンピュータの誕生以来、心とコンピュータをめぐる研究は先端的なテーマであり続けました。その成果の一部は、気づきづらいところで我々の生活を豊かにしています。今後、計算資源の増大、大規模データの蓄積にともない、加速度的に発展していく領域と考えられます。このエキサイティングな領域を、静岡大学情報学部の学生さんと、楽しみ、学び、研究していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

コトバを科学する　―第二言語習得からのアプローチ―

情報社会学科　藤森 敦之

４月に着任しました藤森敦之です。言語理論および第二言語習得を切り口として、「ヒトにとってコトバとは何か」という問題に取り組んでいます。コトバの骨組みとなる文法がシンプルであれば、外国語学習者にとって朗報ですよね。文法がヒトの認識パターンを表しているとすると、出来事に登場する２つのモノの「関係」を把握することが大切です。登場人物と場所との空間的関係（例：近―遠）、話し手と出来事との時間的関係（例：過去―現在）等。限られた数の「関係」を組み合わせることで、多様な出来事を表現できるのが言語です。

上述した文法観に基づき、効果的な外国語学習法の開発および検証にも取り組んでいます。アニメーションなどを取り入れ、メタ言語的知識を視覚化する試みです。視覚情報を用いた指導は口頭指導より有効であるようです。

このような考え方はカナダへの留学経験を通して育まれました。第二言語学習者としての経験、データに基づいた論理的思考法、失敗を恐れず新たなアイデアにチャレンジする精神はかけがえのない財産となっています。一人でも多くの学生が世界に羽ばたいていけるよう、英語の授業等を通して還元していきたいと思います。

社会と連携した教育・研究を

情報科学科　野口 靖浩

４月に情報学部に着任しました野口靖浩です。以前から静岡大学にて社会人向けの教育を担当しておりまして、現在も、産学官連携の組込みソフトウェア技術コンソーシアム(http://architect.inf.shizuoka.ac.jp/hept/)の枠組みの中で、技術者教育プログラムを進めています。

近年、情報通信技術分野でも専門領域化が進み、システム全体を分析・設計する経験の機会が減少しています。その反面、この数年のIoTのトレンドなど、技術領域横断的な分析と統合の必要性も大きくなっています。大学・大学院時代は、基礎的な技術スキルを身に付けると共に、様々な分野にチャレンジできる貴重な時間です。情報通信技術の範疇にとらわれず、自律的な問題解決の方法論とメンタリティを培って頂きたいと思います。今回、学部・大学院の研究・教育についても責任を持つ立場になり、 Project Based Learning (PBL)、 On the Job Learning (OJL) など、現場の問題と連携した学習環境の実践を進めていく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。
（研究室ウェブページ：https://wwp.shizuoka.ac.jp/ks/）

平成28年度　キャリア支援室の取組み

Student career support

情報学部キャリア支援室　渓村 和明

キャリア支援室は、学生に対する早期キャリア意識形成から進路指導・決定までのトータルケアを通じて、学生たちの効果的な就職活動展開のための支援を行うことを目的としています。キャリア支援アドバイザを含めた室員9名体制で、キャリア意識啓発のためのガイダンス、企業・官公庁へのインターンシップ、キャリア支援説明会や合同企業説明会の開催、OB会組織との連携による情報交換などの支援を実施しています。

周知の通り、2017年度春採用については広報開始時期が3月、採用選考時期が6月にそれぞれスケジュールが変更されました。平成28年度9月末で、情報学部学部生72%、大学院生96%が内々定を得ており、ほぼ例年通りのパーセンテージを達成しています。引き続き、就職担当教授やキャリア支援アドバイザとの個別面談や相談等により未内定学生のためのフォローアップに尽力しているところです。今後も就職活動時期が経済、その他の要因により変更される可能性がありますが、このような状況下で見通しとして言えることは、企業はIT、金融、科学などの高い専門性を具体的な形に現すことのできる人材を求めているということです。企業のそのような求めに応えるのが能動的な力、すなわち「考える力」です。学生はこの力をインターンシップで試すことが出来ます。2016年度は情報学部3年生、大学院1年生の計29名の学生が実務実習を選択し、東芝テック、東光高岳、厚生労働省、浜松市役所、K-MIX、浜松市文化振興財団、NEXCO中日本など、民間企業や公共団体に於いて、主に夏休み期間中に1～2週間の研修に就きます。このインターンシップについては実習の前後に企業研究成果・実習内容等の発表を行い、実習期間に応じて1～2単位が付与されます。キャリア支援室ではガイダンスで多くの学生にインターンシップに参加するよう指導しています。

インターンシップ事前発表会（2016/7/28）

大学院新入生研修会（2016/4/7）

今年度4月には大学院1年生を対象に、2年間の修士課程での過ごし方、研究や自己形成の心構え、仲間との共同研究の方向性などについて考える機会を作ることを目的に、大学院新入生研修会を実施しました。今回はNTTドコモ千葉支店長の松木彰氏をお迎えして、講演を行っていただきました。演題は「ケータイ社会終わりのはじまり」でした。学生にはワークシート記入（個人学習）、ワークショップ（グループ学習）を経て、討議結果を各グループでまとめ、報告してもらいました。このような研修を通して、大学院での学び（経験）と、その後のキャリアがどのように結びついていくのかを院生に考えてもらい、キャリア形成の一助となったことと思います。保護者の皆様に年度末には良い報告が出来るようにキャリア支援室員一丸となってキャリア支援に努めてまいります。

学位記授与式・卒業祝賀会のご案内

学位記授与式はアクトシティ浜松（大ホール）、卒業祝賀会はホテルクラウンパレス浜松にて開催されます。

学位記授与式におきましては、ご臨席の保護者様が多数の場合には十分な席数を確保することが困難であることを予めご承知おきください。

また、卒業祝賀会は卒業生･修了生および教職員のみの参加となっておりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

平成 28(2016)年度　行事予定表

2016年		2017年	
10月3日	後期授業開始	1月6日	授業再開
11月12･13日	静大祭･テクノフェスタ(浜松)	2月6日	後期試験期間(～ 2月10日)
11月12日	保護者懇談会･個別面談	3月16日	学位記授与式(浜松)
11月19･20日	静大祭(静岡)	3月23日	学位記授与式(静岡)
12月24日	集中講義(～ 12月27日)	3月24日	春季休業(～ 3月31日)
12月28日	冬季休業(～ 1月3日)		

お問い合わせ　〒432-8561 浜松市中区城北3-5-1 静岡大学情報学部事務局
TEL：053-478-1510　FAX：053-471-0249
学務窓口 pr-gakumu@inf.shizuoka.ac.jp　広報窓口 prcom@ml.inf.shizuoka.ac.jp

Joy風 vol.17 October2016

情報学部のウェブページをご覧ください。

情報学部のウェブページは全面リニューアルされました。最新情報が掲載されていますので、どうぞご覧ください。

http://www.inf.shizuoka.ac.jp/